

みなせ牛の牛丼どうぞ 湯沢市 給食で小中生ら舌鼓



地元産の食材に関心を持ってもらい地産地消につなげようと湯沢市は 21 日、同市皆瀬地域で育てられた和牛「みなせ牛」の牛丼を市内の小中学校 12 校と稲川支援学校の給食に出した。

児童生徒は市内産ネギなどと甘辛く味付けられたみなせ牛を、同じく市内産のあきたこまちに盛り付けて味わった。ほかにも、みそ汁のみそやキャベツ、シイタケも同市産を使った。

皆瀬小学校（佐々木誠校長、63 人）では児童たちが地域の味に舌鼓。6 年生の佐藤來空君は「肉はジューシーでつゆも染み込んでいた。住んでいる地域おいしい食べ物があることが、多くの人に伝わればうれしい」と話した。

市は今後、セリヤリンゴ、ヨーグルトといった市内産の食材や加工品を使った給食を出すことを計画している。（小林智彦）
（令和 4 年 10 月 26 日（水）秋田魁新聞より一部抜粋）



ゆり支援高等部の6人 そばちょこ活躍してる？

納品先の学校食堂見学



由利本荘市のゆり支援学校高等部の生徒 6 人が、同市の旧石沢小学校にオープンした石沢学校食堂を訪れた。生徒が作ったそばちょこが実際に使用されているところを見学し、看板メニューの石沢郷里そばを味わった。

地元のそば粉だけを使った「ざる」を試食。そばちょこを手にとってじっくり眺めたり、重さを確認したりして使い心地を入念に確かめていた。

3 年の柳橋翼さんは「そばちょこには厚みがあり、そば湯を入れてもすぐに熱くならなかったのが良かった。そばは歯ごたえがあってとてもおいしい」と話した。

そばちょこを作ったのは、ゆり支援学校高等部の陶芸班に昨年度所属していた生徒たち。同校は週 2 日、社会で働く力を身に付けるため班に分かれて陶芸や木工、農園芸などを学ぶ「作業学習」を行っている。陶芸班は 3 カ月かけて、そばちょこ約 40 個を制作し納品していた。年度が替わって陶芸班のメンバーは入れ替わったものの、今後の制作に生かそうと 12 日に食堂を訪れた。

石沢小学校は児童の減少で昨春閉校。住民有志が今年 8 月、校舎を活用して、特産の石沢そばを提供する学校食堂をオープンさせた。学校食堂を運営する尾身一人さんは「食材だけではなく食器も地域の物を使おうと思った。生徒の食器がまた出来るのを待っている」と話した。

（二木佳奈）

（令和 4 年 10 月 26 日（水）秋田魁新聞より一部抜粋）